

令和3年度 横須賀美術館運営評価委員会

●横須賀美術館運営評価委員会（令和3年度第1回）

日時：令和3年（2021年）7月26日（火）14時00分～15時30分

場所：横須賀美術館 ワークショップ室

1. 出席者

委員会	委員長	小林 照夫	関東学院大学名誉教授
	委員（委員長職務代理者）		
		菊池 匡文	横須賀商工会議所専務理事
	委員	柏木 智雄	横浜美術館副館長
	委員	濱田 真行	観音崎京急ホテル取締役社長
	委員	三浦 匡	横須賀市立馬堀小学校校長
	委員	小林 惠	市民委員
館長	教育総務部長		佐々木暢行
事務局	美術館運営課長		岡本 剛彦
	美術館運営課管理運営係長		下田 哲央
	美術館運営課広報係長		小川淳太郎
	美術館運営課（学芸員主査）		富田 康子
	美術館運営課（学芸員主査）		工藤 香澄
	美術館運営課（学芸員）		日野原清水
	美術館運営課（管理運営係）		久保田 毅

欠席者

委員会	委員	中村 泰久	市民委員
-----	----	-------	------

2. 議事

- (1) 令和2年度の運営評価について
- (2) 令和3年度の事業計画書について

3. その他

- (1) 今後のスケジュールについて

会議録

【開会】

〔事務局・下田〕：それでは、定刻になりましたので、「令和3年度 第1回横須賀美術館運営評価委員会」を開会いたします。

菊池委員におかれましては、少し遅れるということでご連絡をいただいておりますので、到着次第、ご参加いただくようになります。

本日は、お忙しい中、集まりいただき、誠にありがとうございます。私は、委員長に引き継ぐまで司会を担当させていただきます美術館運営課管理運営係の下田と申します。よろしくお願いいたします。

開会にあたりまして、今回も委員の皆様及び事務局職員を紹介させていただきます。

関東学院大学名誉教授の小林照夫様です。

〔小林委員長〕：小林です。よろしくお願いいたします。

〔事務局・下田〕：この運営評価委員会の委員長をしていただいております。

後から来られます、横須賀商工会議所専務理事の菊池様です。委員長職務代理者をしていただいております。

横浜美術館副館長の柏木智雄様です。

〔柏木委員〕：柏木でございます。よろしくお願いいたします。

〔事務局・下田〕：観音崎京急ホテル社長の濱田真行様です。

〔濱田委員〕：濱田でございます。よろしくお願いいたします。

〔事務局・下田〕：馬堀小学校校長の三浦匡様です。

〔三浦委員〕：よろしくお願いいたします。

〔事務局・下田〕：市民委員の小林恵様です。

〔小林委員〕：小林です。よろしくお願いいたします。

〔事務局・下田〕：市民委員の中村泰久様におかれましては、本日、ご欠席のご連絡をいただいております。委員の皆様の紹介は以上です。

次に事務局職員の紹介をさせていただきます。

横須賀美術館館長、横須賀市教育委員会教育総務部長の佐々木です。

〔佐々木館長〕：佐々木でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

〔事務局・下田〕：美術館運営課長の岡本です。

〔事務局・岡本課長〕：岡本でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

〔事務局・下田〕：広報係長であった相良が4月1日付けの人事異動により横須賀市教育委員会教職員課へ異動しました。その代わりに広報係長となりました、小川です。

〔事務局・小川〕：小川です。よろしくお願いいたします。

〔事務局・下田〕：学芸担当主査の富田です。

〔事務局・富田〕：富田です。よろしくお願いいたします。

〔事務局・下田〕：同じく、学芸担当主査の工藤です。

〔事務局・工藤〕：工藤です。よろしくお願いいたします。

〔事務局・下田〕：学芸担当の日野原です。

〔事務局・日野原〕：日野原です。よろしくお願いいたします。

〔事務局・下田〕：4月1日付人事異動により、博物館運営課より異動してきました、管理運営係の久保田です。

〔事務局・久保田〕：久保田です。よろしくお願いいたします。

〔事務局・下田〕：事務局職員の紹介は以上です。

それでは、ここで、事務局を代表しまして、館長の佐々木より、ご挨拶させていただきます。

〔佐々木館長〕：改めまして、佐々木でございます。

本日は、お忙しい中、令和3年度第1回横須賀美術館運営評価委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、本日の委員会開催にあたりまして、委員の皆様には、お忙しい中、令和2年度の事業に対する二次評価を行っていただきまして、重ねて御礼申し上げます。

二次評価をご覧になられたと思いますが、昨年度の事業の実態がよくわかると思いますか、かなり評価なしというものが多かったかと思います。それも美術館始まって以来

のことであり、こういうものがきちんと残ることで次につながっていくと考えているところでもあります。委員の皆様からはたくさんのご意見をいただいているところがございます。今後の運営に生かして、努力や工夫を凝らして多様な学びを生み出す美術館を目指し、引き続き努力してまいりたいと考えております。

さて、新型コロナウイルス感染症の影響が続いている中でありますが、令和3年度、現在の美術館では、最初の展覧会であります「糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。」が目標観覧者数 16,000 人に対し、観覧者数が 18,010 人となり、達成率 112.6% と好評をいただき、今年度、素晴らしいスタートを切ったところであります。

また、現在、「美術品の購入」、「ウェブサイトの全面リニューアル」、「Wi-Fi の整備」という3つの新たな施策も現在、進めているところでございます。

本格的な「with コロナの時代」を迎えるにあたり、前回、ご審議いただきました「令和3年度 事業計画書」については、いただいたご意見を加味・修正したものに対して、委員の皆様から事前にご意見を頂戴いたしました。これについても、本日のご審議により確定とさせていただきたいと思っております。

全体を通しまして、委員の皆様からは、ぜひ、忌憚のないご意見を本日、頂戴できればと思っております。

それでは、本日もどうぞ、よろしくお願いいたします。以上でございます。

〔事務局・下田〕：本日ですが、傍聴の希望の方は、どなたもいらっしゃいませんでした。ここでご報告させていただきます。それでは、本日の資料の確認をさせていただきます。まず、机にご用意させていただきましたものは、「次第」、資料1「令和2年度 評価報告書（二次評価まとめ）」、資料2「令和3年度 事業計画書」、資料3「運営評価委員会スケジュール」の3つです。併せて、参考資料としまして、「横須賀美術館ニュース Corridart [コリダール]」及び館内の掲示と来館者に配布させていただいております「フリーWi-Fi とポケット学芸員のお知らせ」、以上のものを机の上に置かせていただいております。

また、委員の皆様には事前にお送りさせていただいております資料ですが、「令和2年度 評価報告書（一次評価）」、「参考資料集」でございます。以上が本日の委員会で使用する資料でございます。不備等はございませんでしょうか。

それでは、小林委員長、議事の進行をお願いいたします。

【議事（1）令和2年度の運営評価について】

〔小林委員長〕：コロナ禍の状況で、また、大変暑い日にお時間を作っていただき、委員会にご出席いただきまして、ありがとうございます。至らぬ点が多いかと思いますが、小林が運営の方を司らせていただきたいと思いますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

では、議事（1）に関しまして、事務局さんの方から一つずつご説明いただき、皆さんにご審議いただこうと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

[事務局・下田]：それでは、事務局の方から、評価の進め方と報告書の体裁について説明をさせていただきます。資料1「令和2年度 運営評価報告書（二次評価まとめ）」ですが、こちらは委員の皆様からお送りいただいた二次評価の結果を事務局でまとめたものでございます。

この資料をもとに、後ほど、ご議論いただきたいと考えます。ご承知のとおり、①から⑧までの目標があり、それぞれに「達成目標」と「実施目標」があり、16の評価項目となっております。

ここで、事務局による一次評価の方針を改めてご説明させていただきます。事前に配布させていただきました「令和2年度 横須賀美術館運営評価報告書（一次評価）」の表紙の裏をご覧ください。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業の中止を余儀なくされました。したがって、一次評価にあたっては、ここに記載のとおり「年間を通じた数量で評価するもの」は『F判定』としました。具体的に該当したものは記載の5つの目標となっております。

また、目標のうち「アンケート結果で判断するもの」は『取得できたアンケート結果をもとに判定』という方針のもと、一次評価を実施しました。具体的には記載の2つの目標が該当しています。

その他の目標については、例年通りの方針で一次評価を実施しています。以上が事務局による一次評価の方針です。

次に、二次評価確定の進め方について、ご提案させていただきます。事務局からは、最初に①の目標について、一次評価及び委員の皆様から頂戴した二次評価の説明を簡潔に行います。委員の皆様には、委員会としての二次評価についてご議論いただき、評価を確定していただきたいと思っております。以降、順次、目標ごとにそれを繰り返し、①から⑧まで進めていただきたいと考えております。

また、評価報告書の体裁ですが、コメントは同様のご意見を1つにまとめ、すべて掲載したいと考えています。よろしければ、今まで通り、コメントの後ろにかっこ書きで記名させていただきたいと考えております。事務局からの説明及び提案は以上でございます。

[小林委員長]：ありがとうございました。今、事務局側から説明いただきましたが、委員による二次評価を整理しなければなりませんので、まず順次、審議させていただきたいと思っております。まず始めに、「美術を通じた交流を促進する」という番号①の「①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」、委員の方からそれぞれの評価をいただいております。何か、ここで特に達成目標に関しましてご意見ございますでしょうか。

[事務局・下田]：事務局から簡単に説明をさせていただきます。

[事務局・小川]：それでは、資料1「評価報告書（一次評価）」の2ページをご覧ください。

私からは、「I 美術を通じた交流を促進する」のうち、「①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」の一次評価について、ご説明させていただきます。

まず、令和2年度は、達成目標の年間観覧者数 110,000 人に対して、48,827 人という観覧者となりました。達成率は目標を大きく下回ったのですが、新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休館が長かったこと、また、繁忙期の企画展として予定していた「ミロコマチコ展」の延期等もございまして、令和2年度は行えなかった企画展、または臨時休館等から評価自体が難しく、「F」評価といたしました。

次に、4ページをご覧ください。

実施目標の「様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する」ほか4件ですが、一次評価としましては、「ウェブで楽しむ横須賀美術館」、「あつまれ！どうぶつの森」など、コロナ禍の中で新しい取り組みを行ったこと、また、ツイッター等のフォロワー数が前年に比べ増加したことなどから、来館を促すことが難しい中でも新しい楽しみ方を提供したと考えて「A」評価とさせていただきました。

なお、個々の実施目標の結果状況についてはこれから順にご説明いたします。

4ページをお開きください。

実施目標の1番目「様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する」については、(1) 訴求活動による集客促進をご覧ください。

新聞雑誌等への無料での情報掲載は302件と、目標の220件を上回りました。また、ツイッターのフォロワー数は12,482人と前年度に比べて増加しています。

次に、実施目標の2番目「各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす」についてです。

新規の企画も含め記載のとおりイベントを行いました。「クリスマスアンドハッピーホリデーコンサート」は1,304名の視聴者があり、「ウェブで楽しむ横須賀美術館」、「あつまれ！どうぶつの森」への所蔵作品の公開を行い、広報活動が難しい中で、自宅でも楽しめるコンテンツの提供を行いました。

実施目標の3番目「外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する」については、5ページ、6ページに記載されています

(3) 外部連携の推進をご覧ください。

企画調整課と連携した横須賀野菜の情報発信、こちらは、展覧会の広報ができなかった代わりに市の横須賀野菜をPRしている部署の広告を代わりに掲載したというところがございます。

それ以外に、民間事業者との連携の中では、よこすか満喫きっぷ、今までずっと京浜急行電鉄の発行する企画乗車券に協力していたのですが、令和2年度に三浦半島まるごときっぷというものを新たに協賛、参画させていただくことになり、新たなメニューとなりました。今後も近隣地域の連携など、積極的に進めてまいります。

6ページをお開きください。

団体集客の推進では、例年、旅行会社などに営業活動を行っているところですが、令和2年度は、団体様の受入がなく、営業活動も中止ということになりました。

次の7ページをご覧ください。

商業撮影の受入と誘致でございます。こちらは例年30件程度、受けていたのですが、令和2年度は撮影などの受入を一時中断させていただき、指標としては5件の達成に留まりました。

私からの説明は以上でございます。

〔小林委員長〕：今、説明いただきまして、そのことについて、委員会として評価をしなければいけないのですが、まず「達成目標」のところでは何かご意見はございますでしょうか。

〔小林委員長〕：特にならなければ、皆さん、記載「F」となっておりますので、一次評価と同じように、二次評価も委員会の評価としては、「F」ということでよろしいでしょうか。では、「F」ということにさせていただきます。

それから、「実施目標」ですが、いろいろ記載があります。記載された菊池委員さんの方から何か特にご意見がありましたらお願いします。

〔菊池委員〕：皆さん同じような評価をされていると思いますので、特段、私の方からこれ以上はありません。

〔小林委員長〕：私は少し書きすぎているところがありますが、気持ちは同じで、コロナという特殊な状況があるので、この事実をいろいろな形で次の活動の中に活かしていくために問題提起しておいた方がいいのではないかとということで記載しました。特にご意見がないようでしたら、いかがですか、柏木委員さん、よろしいですか。三浦委員さん、よろしいですか。小林委員さん、よろしいですか。濱田委員さん、よろしいですか。では、ここで、「A」ということで委員会としては評価させていただきますが、よろしいですか。

二次評価について、再度、申し上げますが、「達成目標」につきましての評価は「F」、「実施目標」については「A」というような形で委員会としては評価させていただきます。

では、2番目の説明をよろしくお願いします。

〔事務局・富田〕：では、8ページをご覧ください。

「② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる」の一次評価についてご説明申し上げます。この項目の達成目標は「市民ボランティア協働事業に対する、登録者・一般参加者を総合した参加者数 延べ2,400人」ですが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、すべてのボランティア活動を中止したため、評価不能ということで、一次評価を「F」といたしました。

続いて、9ページをご覧ください。

こちらの項目の実施目標は、「・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。」の二つですが、こちら活動自体が行われなかったということで、一次評価を「F」といたしました。市民ボランティアの活動は、当館の事業の中でも、新型コロナウイルス感染症の影響が最も大きかった領域で、活動が全く成り立たなかったと言ってもよろしいかと思えます。ボランティアさんからは、活動再開を求める声も多く聞かれておりましたが、感染症の状況が行きつ戻りつという中で、なかなか再開に踏み切ることができませんでした。そういったことで、こちらでも、残念な思いが大きかった領域ですが、唯一、プロジェクトボランティア、いつもイベントをしてくださっている、プロジェクトボランティアのグループが、これまでの活動をもとにしたオンラインコンテンツ「すかび隊 presents おうちでできる～」というシリーズを1年間、この年度中に11本制作して、ご自身の「すかび隊」のフェイスブックがあり、そちらのご自分たちのフェイスブックでこの11本の公開をしてくれました。この部分でかろうじて活動を維持することができており、「F」ではありますが、評価委員の先生方からもこの部分に関して評価をしていただくコメントを頂戴しております。②については以上でございます。

〔小林委員長〕：ありがとうございます。「達成目標」に関しまして、今日、中村委員さんがお休みでお見えになっていないのですが、あとの皆さんは特にコメントがございません。そして、皆さん「F」ということですので、一次評価に倣って、二次評価は「F」ということでよろしいでしょうか。

次の「実施目標」ですが、この「実施目標」につきましては、菊池委員さん、柏木委員さん、小林委員さんのコメントがいろいろ記載されていますので、参考の意味で一つご意見を賜ればと思います。よろしくお願いします。

〔菊池委員〕：柏木委員のご指摘と同じ部分ですが、評価をするとなると何か基準があるのですが、なかなかないので、やむを得ず、「F」としますけれども、やっぱり、あの、コロナ禍でも苦勞してやったことは何らかの形で記録が必要だと思えますので、こういうコメントを書かせていただきました。

〔柏木委員〕：先ほど富田さんからもお話がありましたが、新たな活動の方向を探るという意味で、その成果としてオンラインコンテンツを11本制作できたということは、評価不能ではありますが、高く評価すべきだろうと思います。

〔小林委員長〕：小林委員さん、いかがでしょう。

〔小林委員〕：私はギャラリートークボランティアに携わっていますが、コロナ禍では活動のしようがないような状況です。何かいろいろやり方を考えていかないと今後もどうなるかわからないと思っています。次年度は再開できるようにと思っています。

〔小林委員長〕：どうですか。何か他にご意見はございませんか。

評価については、皆さん「F」ということになりましたが、例えば、ここに記載されているオンラインコンテンツの検討など、お二人の委員の方からもお話が出ており、令和2年度のコロナの状況というのは、これからどういうふうが続いていくのかわかりませんが、これは特別な事例というふうに考え、しかし、これからのいろいろな気象変動などを見ると、いろいろなことが起こり兼ねない状況です。そういうことで、評価以外に何か評価の欄にこういう状況下でこういうことを展開したという形で特別に記載していただくことができれば、いかがでしょうか。次に向けた参考になると思います。そのあたりを事務局さんの方で工夫していただいただけませんかでしょうか。どうでしょうか。「実施目標」の二次評価も、「達成目標」も「F」ですが、オンラインコンテンツを実施したなど、このようなことが記載できて、何か次につながるような問題提起があるといいということで、それを記載の中に検討していただくということでいかがでしょうか。よろしいですか。整理としてはあまり良い整理ではないのですが、そういうことでよろしくをお願いします。

それでは、3番目の問題について、よろしくをお願いします。

〔事務局・工藤〕：運営評価報告書の11ページをお開きください。

私からは、「美術に対する理解と親しみを深める」から、「③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす」についてご説明いたします。

こちらの一次評価は、「達成目標」は「A」、「実施目標」は「B」とさせていただきました。

まず、達成目標については、来館者アンケートの結果「企画展満足度 80.0%」をかかげ、目標を超える高い満足度をいただきました。

4月の「マルク・シャガール展」と夏の「ミロコマチコ展」は中止及び延期となりましたが、そのほかの企画展については高い満足度を得ることができました。外出がままならない中、美術館に足を運んだことで、改めてお客様の満足する気持ちが大きかったのではないかと考えております。

要素別でやや低かった数値に着目しますと、「倉重光則+天野純治展」の「解説」は72.9%、「ヒコーキと美術」の「解説」が76.1%でした。「倉重天野展」では作家ごとにそれぞれ、ステイトメントをかかげ、学芸員による解説パネルをつけました。また動画で制作風景も上映しましたが、現代美術、ミニマリズムという分かりにくいテーマでもあり、解説の値が低かったと分析しています。また、「ヒコーキと美術」展では美術史的というより、飛行機の機体そのものについて知りたい来館者が多く見られ、その点でやや求めていらっしゃる解説の満足度が低かったと分析しております。

以上のようなことを総合的に考えまして、一次評価を「A」としております。

続きまして、「実施目標」についてご説明いたします。「実施目標」の評価の理由につきましては、目標に掲げております展示の本数が、美術館休館があったために達成できなかったということが大きな理由です。ただし、美術館の休館中もHPやSNS、あらたに立ち上げたYouTubeで展示について発信いたしました。休館が明けた後も、企画

展は開催していない時期も所蔵品展、谷内六郎館、図書室に人数制限を設けながら開けてきました。

以上から総合的に考え、一次評価を「B」といたしました。私からは以上となります。

〔小林委員長〕：どうもありがとうございます。今、いろいろとご報告いただきました。「達成目標」に関しまして、菊池委員さんからコメントがありますので、何か補足する点がありましたら、よろしくをお願いします。

〔菊池委員〕：「達成目標」に関しては、この通りだと思います。全体数が多ければ多いほど逆に言えば評価が上がる可能性があるのですが、少なければ少ないほど濃密な評価になってくると思うので、それだけ来館者の方々が皆さん満足できるような演出を心掛けた結果が表れているのではないかとということで、「A」という評価にしてあります。

〔小林委員長〕：柏木委員、補足願いたいのですが、お願いします。

〔柏木委員〕：母数など、実施できなかった展覧会があるということ踏まえた上で今回の評価については全体についてですが、「S」という評価をできるところがなく、この「調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす」という部分については、例年数値目標が80%以上で、今回も90%以上ということで、かなり大幅に目標を上回っておりますので、「S」という評価をいたしました。先ほど、ご説明がありました通り、展覧会ごとにいろいろ解説の工夫を凝らしていると思いますが、なかなか一般の方々の理解を得られないということがございます。そのあたりについては、何が問題であったのか、先ほどもご説明がありましたが、よく分析をして次の事業に生かしていかれることを期待いたします。

〔小林委員長〕：他の委員さんはどうですか。

〔濱田委員〕：質問になってしまうと思いますが、満足のアンケートを書いてくれた人は資料編でいくと、来場者の1、2%くらいの人しかアンケートを回収できていないということだと思います。推測すると、多分、毎回来るようなリピーターの方が書いてくれると思っており、満足されるのかなと思いますが、1、2回来た方が美術館を好きになってまた来たいなど、今のリピーターの方だけだとしぼんでしまうことを懸念しているので、初回来場や、2回来場などのクロス集計がもしあれば知りたいです。1、2回の方が満足度60%以上だったらいいのではないかと、そういう指標があってもいいのではないかとということが一つと、ホテルをやっているいろいろなアンケートを取りますが、母数が少なすぎるとミスリードしてしまい、声の強い一人の意見でよかれと思って改修したら、多くの方が実はそんなことは望んでいなかったなどのクレームがきますが、母数を増やすために例えばスパだったらアンケートに答えてくれたら100円引きにしたり、何かノベルティをあげたり、ある期間集中して取ったりします。しかも、初回

来場の人々の分析をしたり、大変評価が高いのは評価するところですが、むしろ1、2回目の方など、母数を増やす努力をしないと、1、2%の人では毎回同じような方が書いてくれているのではないかと想像してしまいますので、そこは努力していただきたいところであると思います。

〔小林委員長〕：いかがですか。

〔岡本課長〕：おっしゃる通りです。今後、母数を増やす工夫を検討したいと思います。ありがとうございます。

〔小林委員長〕：どうでしょうか。

〔濱田委員〕：資料編でいうと、③-a-1というところであると思います。来館者数に対して1%くらいしか回答していないのではないかと思います。

〔工藤〕：アンケートに答えていただいた中での結果になってしまいますが、初来館の方々には毎回、約半分くらいです。あくまでアンケートを書いてくださった方に限ってしまいますが、だいたい半分くらいです。

〔濱田委員〕：残りの半分のリピーターの方々への評価はどうですか。それが同じくらいならとてもいいことであり、今後につながると思います。往々にしてあることは、リピーターの方は毎回来ていいと思っても、初回の方は2回目はもう行かないなんてことがあります。クロス集計をすれば出てきます。

〔工藤〕：今、ここではすぐに出てきませんが、どうもありがとうございます。

〔日野原〕：昨年度のアンケートで補足させていただきますと、1本目の「マルク・シヤガール展」、2本目の「ミロコマチコ展」は開催されていない中の集計になっております。その中では比較的回収率が高いと思っております。例年、人出が少なくなる時期に来館していただいて、かつ、やっぱり再開を喜ぶような内容のコメントなどをつけていただいております。今後は、通年で一定数のパーセンテージの回収を目指していくように努めていきたいと考えております。

〔濱田委員〕：アンケートは、だいたい、とても良かった、とても悪かったという人は、ホテルのクレームもそうですが、サイレントマジョリティーで、大多数の人は書かない、そこそこ満足でも敢えて書かない、何か物をもらえば別ですが、大多数の人はそもそも書かないという前提で考えないといけないと思います。

〔小林委員長〕：どうでしょうか。いろいろご意見もございます。評価に関してですが、皆さん「A」で、柏木委員さんだけ「S」をつけてくださっていて、「A」が多いから「A」というわけにはいかないですが、評価としていかがでしょうか。

「A」ということで、解説の評価については分析が必要と考えますということです。令和2年度は特殊な状況ですので、少し疑問があったり、例年とは違うようなことがデータとして出てきたときには、それらを資料として留めていただく方法を工夫していただければと思います。よろしく願いいたします。

評価に関しましては、「達成目標」が「A」ということでしょうか。それから、「実施目標」に移りますが、ここはご意見が「A」と「B」に分かれています。私もコメントは書きましたが、菊池委員さん、柏木委員さん、それから中村委員さん、小林委員さんも記載がありますので、菊池委員さん、何か補足がございましたら、よろしく願いします。

〔菊池委員〕：基本的には、「達成目標」と同じような内容で、満足度を維持できていると評価いたしましたので、一次評価以上の「A」評価でいいのではないかと思います、このように評価しました。

〔小林委員長〕：柏木委員さん、いかがですか。

〔柏木委員〕：企画展の回数は、コロナの影響で仕方ないと思います。それは評価の対象にはならないと思います。一部を開館したり、あるいは、オンラインでYouTube 配信などの事業補完を行って、オンラインとオフラインの両方バランスよく、この難しい年度で事業の組み立てをされましたので、私は「A」と評価をいたしました。

〔小林委員長〕：ありがとうございます。小林委員さん、オンラインでの動画公開が良かったということで、非常に前向きに記載してくださっていますが、いかがでしょうか。何か付け加えることがありましたら、お願いします。

〔小林委員〕：一次評価と同じ評価を全部出しましたが、「A」にしても全然、私がかまいません。

〔小林委員長〕：「B」ということになっていますが、気持ちとしてはよくやっているなという解釈ですか。そのように読み取ってよろしいですか。

三浦委員さん、何かご意見ございますか。

〔三浦委員〕：前年度に比べて取り組みは遜色ないと思いましたが、「A」とさせていただきます。

〔小林委員長〕：濱田委員さん、いかがですか。よろしいですか。

〔濱田委員〕：はい。

〔小林委員長〕：では、数の上だけで勘定してはいけませんが、小林委員さんの捉え方等々を踏まえまして、「A」と「B」に分かれますが、気持ちの上では「A」評価の方ではないかということで、委員会としては「A」ということで評価させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

では、③につきましては、「達成目標」の二次評価が「A」と、それから、「実施目標」の二次評価は、「A」ということにさせていただきます。よろしいですか。

では、4番目をお願いします。

〔事務局・富田〕：16ページをご覧ください。

「④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する」の一次評価についてご説明申し上げます。一次評価のご説明に入る前に一つ、本項に係る資料の訂正をさせていただきます。18ページの表に関しまして、上から6番目の「中学生のための美術鑑賞教室」の参加者数198人が誤りで、これはツアーを中止いたしておりますので、参加者数はゼロでございます。訂正をさせていただきます。申し訳ございません。

では、16ページに戻りまして、一次評価について改めてご説明申し上げます。この項目の実施目標は「中学生以下の年間観覧者数22,000人」ですが、令和2年度の中学生以下の年間観覧者数は5,789人でした。観覧者数の大幅減により、評価を「F」といたしました。「F」の理由につきましては、まず、観覧者数が大幅に減った原因として、一つは小学校鑑賞会が全面的に中止されたこと、それから、児童生徒造形作品展の会期が3日間と大幅に短縮されたこと、それから、夏季休暇中と重なる7、8月に企画展を行わなかったことがあげられます。そういった意味で、子どもたちに向けた集客要素そのものが極めて少なかったということで、一次評価を「F」といたしました。

「実施目標」については、17ページをご覧ください。17ページの「実施目標」は、「・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。」から、「・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。」までの6項目ですが、こちらについても、子ども向けのワークショップ等の事業を大部分、中止としたため、令和2年度は活動そのものが大幅に縮小してしまいました。しかし、一方で代替えとなる事業を可能な範囲で模索いたしました。特に、ステイホームの状況、あるいは、自宅学習の状況となっている子どもたちを念頭に、既存のアートカードをホームページで改めてPRする試みを4月に行い、5月には新規で通常の小学校の鑑賞会で使っているワークシートを自宅用に改編した「コレクションで遊ぶシート」を制作して、こちらを公開するといった早期に着手した事業がございました。こちらについては、4月、5月の時点ですぐに小学校の先生から自宅学習用の課題として活用したいといったお声を頂戴しまして、一定の効果を上げることができたと感じております。また、ワークショップにつきましても、大部分のワークショップを中止いたしましたが、実施できたものに関しては、一部オンラインのコーナーを取り入れるなど、積極的なやり方を取り入れる、そういった試みをいたしております。そういった意味で、事業そのものは大幅に縮小し

ておりますが、今後に生かせるノウハウをある程度は蓄積できたのではないかということで、「実施目標」につきましては、一次評価を「B」とさせていただきます。④については以上でございます。

〔小林委員長〕：ありがとうございます。この点、大変難しい問題がございますが、まず、「達成目標」につきましては、評価の対象にならないということで、「F」ということで致し方ないと思います。次の「実施目標」については、三浦委員さん、校長先生の立場から学校を休みにしなければいけないなか、授業の在り方自体、総合教育みたいな、そういうものを、正規の授業でもかなり制約を受けている現実のなかで学校としてはそれをどのように受け止めたのか、このあたりのところを校長先生としてお話を願いたいのですが。特に横須賀美術館は、教育の面で、小中学校の情操教育として、非常に重要な意味を持っているだけに一つご意見をいただきたいです。

〔三浦委員〕：我々の美術研究会の反省を踏まえてですが、先生たちの末端まで情報をいきわたらせるにはどうしたらよいかと考えていますが、用意してくださっている内容は大変充実してきていても、情報を伝えきれないというもどかしさを覚えますので、何とかして美術館側から直接、情報を投げてくださいと併せて、研究会事務局や研究会側からも、あちらこちらから働きかけをして情報をいきわたらせて、そういう働きかけがあるとせつかく準備していただいたことを無駄にせず済むと思います。そういうやり取りを密にすると、さらに良かったのではないかと思います。

〔小林委員長〕：いろいろとお話をいただきましたが、菊池委員さんと柏木委員さん、「A」をくださっていますが、補足してくださることがございましたら、菊池委員さん、いかがでしょう。

〔菊池委員〕：基本的に一般の人もちろんそうですが、学校教育との接点が完全に閉ざされていますので、通常年度と同じような連携はできないことが当然の中で、例えばアートカード自体も実質的にはリアルの世界で数に限りがある中で、リモートで絵に親しむためのツールですが、それをさらに一歩進めて、自宅学習など、利用の幅を広げるような努力をされたということがこれから先も生きてくると思います。こういう状況だから駄目だというのではなくて、こういう状況で何ができるかということを考えた末のいわゆる発展形ということで評価すると同時に、それで結論としては「A」にしてありますが、この流れというのはコロナが収束したから落ち着くというわけではなくて、ここから先もずっと続く一つの広がりになっていくと思います。そうなってくると、「達成目標」にしても、「実施目標」にしても、基準というものをこういったものにも広げて把握できるようなことも考えていかないと、この評価委員会の中でもそこをどう評価していくかということになっていくと思うので、一つの試金石として、こういう活動が評価として位置付けられるかということを考えさせられることにもなると思います。

〔小林委員長〕：ありがとうございます。柏木委員さん、いかがでしょう。

〔柏木委員〕：コロナ禍の状況で実施できない、あるいは事業を展開できないことは致し方ないことですが、割とコロナの状況が悪化する最初の早い段階からオンラインでのコンテンツに取り組んでいらっしゃるというところ、その可能性を模索して、今後の活動の可能性を探られているというところがやっぱり私はこの状況の中で評価すべき点であると思います。ただ、先ほど、三浦委員からお話がありましたが、それをどう学校現場に周知させていくのか、取り組みをどう周知していくのかということがやはり少し課題であったと思います。

〔小林委員長〕：小林委員さん、何か意見はございますか。

〔小林委員〕：素晴らしいと思いました。一次評価の理由のところ、「可能な範囲での最小限の活動」の中で「最大限の成果」を得ることができたと思われたことだけでもすごいと思いました。先ほども申し上げましたが、一次評価と同じ評価をつける基本的な私の姿勢で「B」にしましたが、ここは「A」です。

〔小林委員長〕：よくわからないですが、この17ページのところの最後のところにアートカードは児童の自宅学習でも活用されるなど一定の反響がありましたと、このあたりのチェックというのはどういう形でなされたのでしょうか。今、例えばオンラインの問題というのは、小学校、中学校等でどの程度進んでいるのかよくわかりませんが、一定の反響がありましたということですが、この点が評価と大きく結びついている点もあるかと思いますが、実際の反響というのはどういう形でチェックされたのでしょうか。

〔富田〕：一つは学校の先生から直接、お問い合わせをいただきまして、子どもたちの自宅学習の課題に使ってもいいかというお声をいただいたということが、数は少ないですが、2、3件ほどございました。それについて、念頭にあったということと、こういった取り組みを紹介する新聞記事等で取り上げていただいたことがございまして、新聞の中でご紹介をいただいてということがございました。そういう意味である程度ニーズにあった試みができたと自己評価をした次第でございます。

〔小林委員長〕：そのような形で具体的に把握できれば、オンラインの効果等々も今後の教育の問題として非常に重要になってきます。

いろいろご意見をいただきました。このあたりの評価はどのようにしたらよろしいでしょうか。「A」と「B」に分かれています、いかがでしょう。数の点では4対2で「B」となっていて、私だけが変な評価になっております。もし、一次評価通り「B」ということにしても、菊池委員さん、柏木委員さんから出てきましたオンラインの活用等々の新しい取り組みということは何らかの形で次に続くような形で記載なりしていただくということで。全体的には「B」ですが、そういう新しい芽が出てきたという

ころを考慮していただくということによろしいでしょうか。

「達成目標」について二次評価は「F」、「実施目標」については「B」、それから、オンライン等々の新しい取り組み、こういうものに対して、一つの試みがなされた点の記載等々が次に残るような形で資料として作成しておいていただければと思います。よろしくをお願いします。

では、環境調査の実施等々、所蔵作品の問題を含めまして、5番目のことにつきまして、よろしくをお願いします。

〔事務局・日野原〕：では、19ページをご覧ください。

「⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。」の「達成目標」につきましては、環境調査の実施年2回、美術品評価委員会の開催年1回です。こちらは両方とも開催できたことから一次評価を「A」としました。

続きまして、20ページ、「実施目標」につきまして、「収集方針に基づき、主体性を持って積極的に収集活動を行う。」から4項目ございます。こちらは、一次評価を「B」といたしました。理由としては、休館により作品の公開日数が減少したこと、また、職員の在宅勤務等により出勤が抑制され、例年に比べ、虫害防除や、所蔵作品の修復計画について遅れが見られ、検討を十分に行えたと見えない状況にあったためです。一方で、長年の懸案であった作品購入の道筋がつけられたことは前進と捉えております。以上の理由により、「B」評価としております。

次に、委員の皆様のご二次評価につきまして、達成目標は一次評価と同じく「A」をいただいております。「実施目標」につきましては、柏木委員と中村委員から「A」評価をいただきました。コメントで作品購入の道筋がついたことを評価していただいております。他の委員の方々からは一次評価と同じ「B」評価をいただいております。⑤については、以上です。

〔小林委員長〕：ありがとうございます。今、所蔵作品に関する説明をしていただきましたが、「達成目標」に関しまして、特に記載事項はないですが、委員の皆様から何かコメントがありましたら、よろしくをお願いします。よろしいですか。

では、これは皆さん「A」になっておりますので、二次評価は「A」ということにさせていただきますが、よろしいですか。

「実施目標」につきまして、柏木委員から記載があって、評価が「A」ということになっております。このあたりのところのご意見を賜りたいと思います。よろしくをお願いします。

〔柏木委員〕：この委員会の席でこの件については発言をさせていただいております、美術館にとって購入によって計画的に美術品の所蔵品を充実させていくというのはいわば生命線でありますので、これが開館以来、目途が立たなかったものが目途をつけられたということは評価したいと思います。ただ、皆さん「B」にされている通り、今年度、収集委員会でもしかしたら、ふさわしいものがあって購入案件が上がってきて、

購入が実現したら、「A」にしてもいいのかもしれないです。

〔小林委員長〕：ありがとうございます。何か他に委員の方で、ご意見がございますでしょうか。よろしいですか。柏木委員さん、状況としては、気持ちとしてはわかりますが、一次評価をしてくださった「B」ということで二次評価も考えてよろしいでしょうか。

〔柏木委員〕：はい。

〔小林委員長〕：では、そういうことで、二次評価「B」ということにします。5番目に関しまして、「達成目標」は「A」、それから、「実施目標」については「B」という評価で、よろしくお願ひします。

次に、6番目の「利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。」ということに関しまして、ご説明をお願いします。

〔事務局・下田〕：では、22 ページをご覧ください。「⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。」についてです。

こちらの一次評価は、「達成目標」、「実施目標」ともに「A」とさせていただきました。

まず、「達成目標」については、そのページの下にあります〔一次評価の理由〕の欄でお示ししている表のとおり、来館者アンケートの結果「館内アメニティ満足度95.7%」、「スタッフ対応の満足度 92.9%」とどちらも目標を超える高い満足度をいただきました。

また、昨年6月の再開館時から、正面入口にて検温や手指のアルコール消毒をお願いしていますが、スタッフの対応及び適切な器具選定により、苦情にはつながっていません。

以上から一次評価を「A」としています。

23 ページをご覧ください。「実施目標」「A」の評価理由については、各項目で具体的に23、24 ページに記載させていただいております。

ここに記載しております各事業者とも日々緊密なやり取りをしながら、来館者が気持ちよく過ごしていただけるような運営を心がけています。

以上が一次評価の理由です。

ここで本日、机上に配布させていただきましたWi-Fiのチラシをご覧ください。

館内のFree Wi-Fiにつきましては、今月初めに設置工事を行いました。中段に赤いイラストがありますが、ここに記載がございます「ポケット学芸員」につきましては7月19日から始まりました。令和3年度第2期所蔵品展から24点を選びまして、日本語、英語ともに解説をご覧いただけるようになっております。

また、谷内六郎作品につきましては、総合高校演劇部の皆様にご協力いただきまして、ナレーションも同じ「ポケット学芸員」というアプリの中で聞けるようになっております。

す。「ポケット学芸員」につきましては、ご自宅でも、横須賀美術館を選んでいただきまして、ご利用いただけるようになっておりますので、もし、本日、この場でなくてもご自宅でも一度使っていただきまして、ぜひどんな感じか、ご覧いただければと思っております。

二次評価まとめの6ページをご覧ください。委員の皆様の二次評価を拝見いたしますと、「達成目標」で柏木委員から「S」評価をいただきました。その他の部分は、皆様「A」評価をいただいております。私からの説明は以上です。

[小林委員長]：ありがとうございます。6番の「利用者にとって心地よい空間」に関するところですが、柏木委員さん、いかがでしょう。柏木委員さんは横浜美術館を実際に管理・運営されていて、副館長さんをやっておられますが、そういう立場で見ても、横須賀美術館は大変頑張って、よくやっているということで一つの評価をくださっていると思います。そういう点では、「S」が一つだけですが、この「S」はそういう意味では、美術館の状況を知っておられる方が評価されているということで非常に重みを持った「S」と思います。ですが、皆さんが「A」ということですので、一次評価に倣って、「A」という評価でよろしいでしょうか。私の方で勝手に問題提起をさせていただきますが、よろしいですか。では、ここは「A」ということにします。

「実施目標」に関しましては、皆さん「A」ということで、そのまま二次評価「A」ということにさせていただきたいと思いますが、よろしいですか。

⑥の点に関しましては、「達成目標」が「A」、それから、「実施目標」が「A」ということで、よろしくをお願いします。

では、次の7番に関しまして、お願いします。

[事務局・富田]：では、25ページをご覧ください。

「⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。」の一次評価についてご説明申し上げます。この項目の「実施目標」は、「福祉関連事業への参加者数延べ320人以上」ですが、令和2年度は、やはり新型コロナウイルス感染症の影響で、障害当事者の方を対象とした事業をはじめ、ほとんどの事業を中止いたしております。そういった事情によりまして、一次評価を評価不能の「F」にいたしております。

続いて、「実施目標」について申し上げます。「実施目標」については、26ページに記載のある3つの項目に関してですが、こちらにつきましては、確かに事業自体は行うことができなかつたのですが、代替えとして模索した事業が、それなりに今後続く事業であったとこちらで捉えておりまして、そういったことから一次評価を「B」といたしております。

まず、開催できた事業についてですが、福祉関連イベントとして、障害当事者が通われる通所作業所のスタッフに向けた通所作業所での造形活動のサポートに関するワークショップで、これは横須賀市の障害福祉課と連携して実施をいたしました。これが開催できた事情としては、そもそもは令和元年度に予定されていた事業で、それがやはり新型コロナウイルスの影響で、年度末にできなかつたので、年度を繰り越して、延期し

てこの年に開催できたという事情がございます。そういったことでかろうじて開催できたわけですが、この事業、通所作業所の造形活動に関するサポートということに関しては、今後も横須賀美術館としては継続して行っていきたいと考えている事業であるため、この年に繰り越しではありながらも、何とか間隔を空けずに開催できたということの意義は大きかったのではないかと捉えています。

それから、「みんなのアトリエ」、これは障害当事者の方に向けたワークショップですが、こちらについては年 12 回の実施予定をすべて中止いたしました。しかしながら、動画を 4 本制作いたしまして、「おうちでできるみんなのアトリエ」ということで、4 本の動画を当館の YouTube にて公開することができました。こちらについては、再生回数のお尋ねをいただいておりますが、現在の 7 月の時点で、4 本でだいたい 1200 回を超える再生回数になっていまして、昨年度末の状況で 1000 回弱の再生回数となっております。YouTube 全体で見ると、1000 回程度の再生回数は決して多いとは言えないと思いますが、そもそもこの事業の参加者数の規模等を考えますと、むしろ YouTube によってご覧いただく方の数がこの「みんなのアトリエ」という事業の取り組みの可能性がもしかしたら広がった部分もあるのではないかと考えて、そういった希望も込めまして、今後に生かしていきたいということで、「実施目標」の一次評価を「B」といたしました。私からは以上でございます。

[小林委員長]：ありがとうございます。いろいろ努力してくださっている数字が出ていますので、しかし、一次評価で「F」となっていて、判断できないのではないかと、皆さんそのようなお考えのようですので、「達成目標」につきましては、「F」ということでよろしいでしょうか。

「実施目標」につきましては、いろいろご意見があります。まず、私の方で口火を切らせていただきますが、とても努力されていることは認めます。「みんなのアトリエ」に対する評価も十分できるものと思っています。しかし、一方では美術館に福祉関連の方たち、障害をもたれた方たちが来れるということが横須賀美術館の一連の活動の中でいわゆるバリアフリーに対する活動という、ハンディキャップをもっている人たちも横須賀美術館なら実際に来て作品を見ることができる、ここに大きな意味があると考え、今回のように休館になっている状況、あるいは YouTube という、いろいろな映画などもやられている、そういうものとは違う、いわゆるバリアフリーの美術館というものを考えている美術館としてはこのまま数字をどう考えていいのかなということでこういうコメントをしましたが、そんなことも踏まえてご検討願いたいです。

それから、菊池委員さんも YouTube のアトリエそのものを評価されており、柏木委員さんも評価されております。そういうことを踏まえまして、基本的な問題と兼ねて、どういうふうにしたらよいかということ。なかなか他の美術館では障害をもっている人たちの入場に対してどの程度、前向きに考えているかわからないですが、少なくとも横須賀美術館はこれまで一つの課題として考えてこられた部分がありますので、そんなことを踏まえて問題提起をさせていただきます。

〔菊池委員〕：小林委員長がおっしゃったように、確かにそういう視点は非常に大事なことで、忘れてはいけないこととして再認識させていただいて、今回の場合は、「みんなのアトリエ」YouTube 配信でだいたい 300～400 回の視聴があったということで、これは数を稼ぐものではないので、それはそれで良かったと思います。

小林委員長のお話と同時に、こういう取り組みがこれからもおそらくリモートという意味で活用の幅が広がっていったときに今の小林委員長のお話の中で、全部を配信だけで完結するのではなくて、いわゆるリアルとリモートの融合というか、事前学習としてリモートを活用して、それをもとにリアルに美術館でというように、ハイブリッドの形のトライアルもこれから考えられるのではないかと思いますので、いろいろな可能性がこのコロナ禍で、どちらかに振れるのではなくて、両方融合させた形を考える機会にもなっていると思いました。評価は評価として、一応「B」にはしてありますが、今の委員長の発言をお聞きして、そのように感じました。

〔柏木委員〕：全体に言えることですが、コロナの状況で数値目標の未達というのは仕方ないと思いますが、「実施目標」については、できなかったことはもちろんあるのですが、この状況の中でできたことをなるべく高く評価したいと思いました。今、菊池委員からもお話がありましたように、オンラインとオフラインの両方のハイブリッドということがこれからも美術館活動においては非常に重要になってくると思うので、そのことを踏まえていろいろな取り組みを試みられているというところを評価したいということと、それから、福祉作業所の障害当事者ではないスタッフの方々とのワークショップを断念せずに続けられたということの評価したいと思います。

〔小林委員長〕：他にご意見はいかがですか。濱田委員さん、小林委員さん、三浦委員さん、何かありましたら、お願いします。

では、ここで、柏木委員さんには申し訳ないですが、皆さん「B」ですので、「B」ということでよろしいでしょうか。いろいろ評価点を今後考えなければならないこともあると思いますので、数の論理で評価させていただきますが、よろしいですか。

では、⑦の「達成目標」は「F」、「実施目標」は「B」と評価させていただきたいと思います。

では、最後になりますが、「事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。」ということにつきまして、よろしくをお願いします。

〔事務局・下田〕：次に 27 ページをご覧ください。「⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する」についてです。

「達成目標」については、電気、水道、事務用紙の使用量が例年より大きく減少していますが、これは新型コロナウイルス感染症への対策に伴う美術館の臨時休館および 4 月～6 月にかけて行われました職員の在宅勤務が理由と考えられるため、一次評価を「F」とさせていただきました。

次に、「実施目標」については、記載しております理由から一次評価を「A」として

います。

なお、今回の報告書には記載していませんが、この目標に関して一つ、ご報告をさせていただきます。昨年度、電気代の削減を図るため、いわゆる「電力入札」を行いました。結果的には、従前と同じ東京電力が落札することとなりましたが、昨年度の9月から契約形態が変更となっております。昨年度はかなりの日数の臨時休館があり、単純な比較はできませんが、令和元年度中の電気料金は5,300万円だったものが、令和2年度は3,600万円となっております。こちらで報告させていただきます。

二次評価まとめの8ページをご覧ください。委員の皆様の二次評価を拝見しますと、達成目標は皆さま「F」としていただきました。

「実施目標」に関しましては、小林委員長が「F」評価、その他の皆様は「A」としていただいております。私からは以上です。

〔小林委員長〕：これも大変難しいですが、いろいろな形で目安として「達成目標」があるわけですが、「達成目標」については「F」ということは致し方ないと思います。

「実施目標」について、皆さん「A」ということですので、「A」ということでよろしいでしょうか。

実際には、在宅勤務は令和2年のときに日数的にはどのくらいあったのですか。

〔下田〕：日数的には、4月の中旬から6月中旬の再開館までやっておりましたので、3ヵ月間くらいです。しかし、全員在宅になるわけではなくて、一人当たり週に2、3日です。

〔小林委員長〕：休館日は年間を通じてどのくらいあったのでしょうか。

〔下田〕：令和2年3月から令和3年3月までで、163日間です。

〔小林委員長〕：そうすると、年間で動かしていた、直近の3年間の平均値を目安とするということと、実働で働いた数とは変わってきますので、数字の上ではいいですが、「A」と評価するにも、いろいろなことが記載されて、体温計を取り入れたこともあり、アルコールを用意されたこともあり、特殊状況下での支出部分を次の参考になるように記録としては留めながら評価をしていただく、記載事項があって例年の読み方とは違いますが、見る人にとって、あるいは、事業として、今後を引き継ぐにあたってそれが大きな分析の資料になるような記載を踏まえて今年はお書きいただくと有効なものになると思いますので、よろしく願います。

評価は「A」ということにしましても、数値が全く違っているものに関しては、そういうことを書き加えて評価書を作っていただければということです。私の意見としてはそんなところですが、何か他に委員の皆様、ご意見がありましたら申し上げます。

では、確認をさせていただきますが、大事なことですので、よろしいですか。もう一度、資料を開いてください。

- 1 番については、「達成目標」「F」、「実施目標」「A」
- 2 番については、「達成目標」「F」、「実施目標」「F」
- 3 番については、「達成目標」「A」、「実施目標」「A」
- 4 番については、「達成目標」「F」、「実施目標」「B」
- 5 番については、「達成目標」「A」、「実施目標」「B」
- 6 番については、「達成目標」「A」、「実施目標」「A」
- 7 番については、「達成目標」「F」、「実施目標」「B」
- 8 番については、「達成目標」「F」、「実施目標」「A」

そして、その他、特記事項等が必要な部分もありますので、これまでの記載方法とは違う点もありますが、令和2年をいろいろな形で教訓として、後々活かされていくような資料作りを工夫していただければよりいいものになると思います。よろしく申し上げます。

1の議事については、よろしいですか。それでは、2の議事についてお願いします。

〔事務局・下田〕：それでは、今、ご審議いただきました評価報告書につきましては、本日の審議内容を踏まえまして、修正したものを委員の皆様へ送付させていただきます。委員の皆様には、もう一度、ご確認いただきまして、何かご意見ございましたら、朱書き等の訂正により、ご返送いただきたくお願い申し上げます。その後は、事務局と委員長の方に一任としていただきまして、完成していきたいと考えております。

【議事（2）令和3年度の事業計画書について】

〔事務局・下田〕：それでは、議事（2）令和3年度の事業計画書について、事務局から説明をさせていただきます。

本日、資料2として配布させていただきました令和3年度事業計画書をご覧ください。

こちらにつきましては、今年3月に開催させていただきました本委員会で皆様からご意見をいただきまして、一番大きな修正事項としましては、2ページに『『with コロナ』の時代を迎えるにあたって』というページを追加させていただきました。

また、事前に委員の皆様からいただいたご意見の中には、『『③企画展満足度』と『⑥スタッフ対応の満足度』の達成目標は、ここ数年の実績に鑑み、一段階、高めに設定してもよいように感じます。』というご意見をいただいております。このことも含めて、再度、この場でご議論いただければと思っております。私からの説明は以上です。何か皆様からご意見があれば、伺いたいと思っております。

〔小林委員長〕：令和3年度の事業計画書について、いかがでしょうか。

〔事務局・下田〕：特にないようでしたら、こちらで令和3年度の事業計画書は確定させていただきます。

【その他（1）今後のスケジュールについて】

〔事務局・下田〕：それでは、次第の3、その他（1）今後のスケジュールについて事務局から説明させていただきます。

本日、お配りしました資料3をご覧ください。「運営評価委員会スケジュール」です。

まず、本日第1回会議でご議論いただき、決定した二次評価をもとに、令和2年度評価報告書を作成し、委員の皆様にご確認いただきます。そして、委員の皆様からご承認をいただいた上で、評価報告書が確定します。確定した評価報告書は、その後、9月の予定ですが、教育委員会定例会の方に報告させていただきます、公開されるようになります。

また、表の下段の令和3年度の事業計画につきましては、本日確定した事業計画書をもとに令和3年度の事業を実施し、第2回会議で中間報告を行い、第3回会議で令和4年度の事業計画案をお示しするという流れで進めてまいります。

今後のスケジュールについては、以上となります。

何か、ご不明な点や、ご意見がございましたらお伺いいたします。

〔小林委員長〕：どうですか。何かございますか。いかがでしょうか。先ほどの事業計画書にも目を通していただいて、何か伺っておきたいことがありましたら、よろしくお願ひします。

〔事務局・下田〕：では、特にありませんでしたら、先に進めさせていただきます。

〔事務局・岡本課長〕：長時間に渡り、本当にありがとうございました。「with コロナ」の状況下での新しい評価の仕方、そのための指標を立てなければいけないことをご指摘いただき、ありがとうございました。また、アンケート等におけるお客様の意見にあたって母数を高めていかなければならないこと、当たり前のことですが、気づかされました。検討していきたいと思ひます。

2年間、本当にありがとうございました。任期は今日までとなります。本当に2年間、お疲れさまでした。ありがとうございました。今後とも横須賀美術館をよろしくお願ひいたします。本日はありがとうございました。

〔小林委員長〕：ありがとうございます。

〔菊池委員〕：一点、よろしいですか。評価の最後に、こういう評価でいいですかという、○、△、×のものはどうなりましたか。

8番の評価の最後の、この評価でいいのか、悪いのか、というものです。

〔事務局・下田〕：すみません。まとめていないです。資料として、記載の報告書の評価の中には入っていなかったの、用意していなかったのですが、何かございますでしょうか。

〔菊池委員〕：みなさん、答えているのではないですか。まとめていないのであれば、いま議論できないと思いますが。

〔事務局・下田〕：また、皆様にお送りするときには、まとめたものを作りまして、ご意見をいただければと思います。

他に何かございますでしょうか。特になければ、こちらで、第1回運営評価委員会を終了させていただきます。長い時間にわたり、どうもありがとうございました。